令和7年第1回斑鳩町議会定例会の開会にあたり、私の町政運営に関する所信の一端を申しあげ、住民の皆様並びに議員の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

早いもので、私が、住民の皆様から負託を受け、首長としての重責を担うことになりましたから、8年目の春を迎えます。

豊富な歴史文化資源と自然環境が一体となったまち、斑鳩。

生まれ育ったこのまちを、全ての世代が希望を持って暮らせるまちにしたい。

この思いを胸に、町政運営に邁進してきました。

2期目の大半が新型コロナウイルスの影響を受けながらの町政運営となりました。

これまで誰も経験したことがないコロナ禍において、町医師会などの関係機関と連携したワクチン接種をはじめ、クーポン券の発行、学校給食の無償化、水道料金の基本料金の支援事業など、さまざまに取り組んだコロナ対策事業においては、その効果は勿論、常にスピード感を大切に住民の皆様へ対応することを心がけてきました。

予測困難な時代と呼ばれる現代社会において、新型コロナウイルスが引き起こしたパンデミック、相次ぐ紛争など国際情勢を背景とした物価高騰、地球温暖化の影響とされる自然災害の激甚化や頻発化など、あらゆる物事が想像をはるかに超えるスピードで変化しています。

こうした時代だからこそ、私は、住民に寄り添い、しっかりと生活を支え、同時に、前に進むため、未来を探り、住民とともに、斑鳩町の将来を描いていきたいと思っています。

私がめざす斑鳩の姿は、誰もが住み続けたい、住んでみたい、訪れたいと思える活力とにぎわいにあふれるまちです。

現在、本町では、新西和医療センター建設や大和川遊水地の整備などの大規模なプロジェクトが同時期に進行し、まちづくりの転換期を迎え、未来に向けて、大きく進みだそうとしています。

私自身、こうしたタイミングで町長として職務を執り行わせていただいていることは、本当に幸運だと感じています。だからこそ、この動きをまちの機能や魅力を向上させるチャンスと捉え、わがまち斑鳩の50年先、100年先を意識しながら、将来にわたって魅力あるまちとして持続的に発展していくため、堅実かつ大胆に取り組んでまいります。

こうしたなかで、令和7年度予算案は、一般会計で総額110億1,000万円を

計上しています。前年度と比較して、3億4,000万円、3.2%の増額となっています。

また、一般会計、特別会計及び企業会計の3会計を合わせた総予算額は、188億1,882万円で、水道事業会計の廃止に伴い、8億4,225万7千円、4.3%の減額となっています。

なお、企業会計を除く総予算額は、172億1,120万円で、4億1,010万円、2.4%の増額となっています。

それでは、第5次斑鳩町総合計画の基本目標に沿って、令和7年度の主要な施策についてご説明申しあげます。

1つ目の柱、「安全・安心にらせるまち」についてであります。

はじめに、「災害に強いまちづくり」では、災害に対するまちの安全性の確保として、近年の著しい集中豪雨に伴う内水防除を目的に、本年度に完成予定の法隆寺北1丁目地内の調整池への導水路の整備工事を引き続き実施し、早期に整備効果が発揮できるよう取り組んでまいります。

また、浸水時の避難や日頃からの備えに活用するため、大雨時に都市下水路などから浸水が想定される区域や浸水する深さなどの情報をまとめた「内水浸水想定区域図」を作成してまいります。

さらに、令和6年能登半島地震を踏まえた国の防災基本計画等の改正に対応するため、町地域防災計画の見直しを行うとともに、ライフラインが寸断された場合に備え、元上水道用の井戸を災害時に生活用水として使用するための管理を進めてまいります。

また、消防力の充実として、町消防団への空調服の貸与や災害対応ドローンを配備してまいります。

次に、「防犯・生活安全の向上」では、防犯活動の強化として、法隆寺駐在所跡地に奈良県警察本部が運用する「動く交番」を定期駐留させ、警察や地域との連携のもと、身近なくらしの安全・安心の確保に努めてまいります。

また、交通安全対策の推進として、交通事故を防止するため、交通安全施設の整備を進めてまいります。特に、通学路については、子どもたちが安全で安心して通学、通園ができるよう、地域の皆様や警察など関係機関と協力し、安全点検を実施し、交通安全施設の適切な維持管理に努めてまいります。

次に、「ライフラインの確保」では、水道事業は、奈良県広域水道企業団が設立さ

れ、本町を含む26団体の水道事業が本年4月1日から統合されます。住民の生活を守る大切なライフラインであることから、県と関係市町村が広域で連携して、将来にわたって持続可能なサービスの提供に努めてまいります。

また、下水道事業では、いかるがパークウェイの五百井・興留区間や新西和医療センター移転候補地等を事業計画区域に編入し、効率的な整備を進めるとともに、整備が完了した地域での公共下水道への接続の促進に努めてまいります。

2つ目の柱、「コンパクトで質の高い持続可能なまち」についてであります。

はじめに、「道路・交通網の整備」では、いかるがパークウェイの五百井・興留区間の本線において、現在、西側から順次、地盤改良工事等が実施され、令和6年度からは、イツボ川部分の河川工事に着手されております。また、県道大和高田斑鳩線との接続部分についても、県道の拡幅に伴う用地取得が進められており、今後も、本区間の早期開通に向け、国や関係機関と連携し、円滑な事業促進に努めてまいります。

また、生活道路の整備として、地域からの要望路線や継続して取り組んでいる路線の整備を計画的に進めるとともに、JR法隆寺駅東側の興留踏切において、視覚障害者誘導表示を設置し、安全・安心な移動の確保に取り組んでまいります。

さらに、生活道路の経年劣化や破損などに対する修繕工事、定期点検や修繕計画の見直しによる橋りょう環境の整備など、安全で快適な生活に支障をきたさないよう、道路施設の適切な維持管理に努めてまいります。

次に、「住宅・生活環境の整備」では、法隆寺及びJR法隆寺駅周辺地区における奈良県と連携したまちづくりとして、令和3年度に県と締結した基本協定に基づき、次の段階となる、区域ごとの事業内容を具体化する基本計画を策定してまいります。そのなかで、JR法隆寺駅周辺地区においては、駅南側地区に新西和医療センターが移転整備されることを契機に、一体的なまちづくりに向けた検討を進め、官民連携手法の導入可能性調査や、病院部分を含めた都市計画変更の手続きを進めてまいります。

また、人口減少・少子高齢化等の社会情勢を踏まえ、持続可能な都市経営の観点から、居住機能や都市機能の立地、集約等の方針を定める「立地適正化計画」の策定に取り組んでまいります。

次に、「循環型社会の推進・環境保全」では、循環型社会の推進として、高齢者のごみ出し支援の充実や地域集積所の管理等に関する課題解決に加え、さらなるごみの減量化・資源化を進めるため、可燃ごみ及び生ごみを対象とした町全域における戸別

収集の実施を見据え、戸別収集モデル事業を実施し、課題や問題点の洗い出しを行ってまいります。

また、ゼロ・ウェイストの実現に向け、食品ロス削減事業所認定制度を創設し、食品ロス削減に向けたより一層の意識啓発に取り組んでまいります。

また、環境保全対策の推進として、斑鳩町地球温暖化対策実行計画に基づく温室効果ガス削減目標の達成に向けて、町有施設における再生可能エネルギー等導入計画の策定に向け取り組んでまいります。

次に、「持続可能な行財政運営」では、優先的に取り組むべき施策や新たな行政課題に対応する機能的な組織の構築のため、新年度から行政組織を見直し、効率的かつ効果的な行財政運営を推進するとともに、より質の高い行政サービスの提供に努めてまいります。

また、まちづくりの基本となる第5次斑鳩町総合計画前期基本計画の期間が令和7年度で終了することから、本年度に実施した住民意識調査の結果や新たな行政課題への対応を踏まえ、後期基本計画を策定してまいります。

また、コンパクトで質の高い持続可能な組織をめざし、DX推進を行政改革の重要事項として位置づけ、「住民にも職員にもやさしい窓口」の実現に向けた取組みを進めるとともに、町が保有する地下埋設物や町道認定路線等の情報をコンピュータの地図上で公開する地図情報閲覧システムを導入し、行政サービスの向上と事務の効率化に努めてまいります。

さらに、職員の積極的かつ主体的な研修を支援し、人事評価に基づく能力・実績を的確に反映した人事管理を行うことにより、職員の人材育成と組織マネジメントの強化を図るとともに、長時間労働の抑制や各種ハラスメント対策を講じることにより、誰もが働きやすい職場環境の構築に、引き続き取り組んでまいります。

3つ目の柱、「子どもの未来が輝くまち」についてであります。

はじめに、「子育て環境の充実」では、本年3月に「第3期斑鳩町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、令和7年度から令和11年度までの5年間、和のこころのもと、住民の皆様とともに、子どもの権利を尊重し、「親と子の笑顔きらめく 子育て応援のまちづくり」を進めてまいります。

妊娠期から子育て期の切れ目ない支援として、令和6年4月に設置した「こども家庭センター」内の専門家の配置を拡充し、子どもや保護者の心理的ケアの充実を図る

とともに、担当職員との連携、各機関との調整により支援体制を強化してまいります。

また、妊婦健康診査や1か月児健康診査にかかる費用の助成額の増額、不妊に悩む夫婦に対して、一般不妊治療等の費用助成に加え、生殖補助医療に係る費用の助成を行うなど、誰もが安心して妊娠・出産・子育てができる支援の充実に取り組んでまいります。

また、多様な保育サービスと受け入れ体制の充実として、町立保育園を利用する保護者の負担軽減を図るため、令和8年度から手ぶら登園支援を導入することとし、新年度にコットベットを購入するなど、準備を進めるとともに、令和6年4月に開園した認定こども園を含め、町内の民間保育施設の職員配置等に対する支援の充実を図り、斑鳩町全体における保育の質の向上に努めてまいります。

さらに、子育て世代の交流の促進を図るとともに、令和8年度からの「こども誰でも通園制度」の試行実施として、地域子育て支援センターにおいて、つどいの広場事業を拡大し、地域子育て教室「ぷち保育室」を開催してまいります。

次に、「子どもの教育の充実」では、時代に応じた教育内容の充実として、読解力や自ら学ぶ力、知識を活用する力などを育み、確かな学力の向上を図るとともに、中学校卒業時に英語検定3級程度に到達できる英語能力の修得を目標として、教員の授業改革や教育指導の充実に取り組んでまいります。

また、小・中学校9年間を通じて、本町の豊富な歴史資源を題材に、教科横断的に学ぶ教育プログラム「いかるが楽」に引き続き取り組み、伝統と文化を尊重し、継承・発展させる意欲と態度の育成を図ってまいります。

また、全国的な生徒数の減少と教員の働き方改革が進むなか、生徒が将来にわたってスポーツや文化芸術に継続的に親しめる機会を確保するため、令和8年度からの休日の教員による中学校の部活動指導の廃止に向け、学校部活動の地域移行に向けた体制の構築を図ってまいります。

さらに、地域とともにある学校づくりに向け、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組むコミュニティスクールの導入を進め、全ての小・中学校に学校運営協議会を設置してまいります。

また、不登校対策では、「斑鳩町子どもと親のフリースペース くるむ」の運営を行うとともに、「未然防止」と「初期対応」の2つの柱で対応の充実を図る“アイ・キャッチ”プロジェクトを各小・中学校において、着実に実施してまいります。

また、教育環境の整備・充実として、将来を見据えたより良い教育環境を整備するため、学校施設の適正規模・配置等に関する方針を定めた学校施設適正規模等基本構想（案）を取り纏めてまいります。

さらに、誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現する教育ICT環境を整備するため、国のGIGAスクール構想第2期に基づき、令和2年度に整備した児童生徒1人につき1台の学習用端末の更新を行ってまいります。

次に、「子どもを守るしくみの充実」では、こども家庭センターと要保護児童対策地域協議会が中心となり、関係機関と連携して、子育て世帯の見守り体制の充実を図るとともに、児童虐待の防止と早期対応に努めてまいります。

また、これまで妊娠期から産後1歳までを対象に実施していたヘルパー派遣事業の対象年齢等を拡大し、子どもが18歳になるまでの幅広い家庭の支援を行い、ヤングケアラーの支援・予防にもつなげてまいります。

さらに、保育サービスを利用する多子世帯への経済的負担をさらに軽減するため、令和7年4月から、在園第2子の保育料を町独自の支援として無償化してまいります。

4つ目の柱、「誰もが健やかに生き生きとくらせるまち」についてであります。

はじめに、「健康づくり」では、次世代の健康を育む観点から、女性ホルモンの変化が大きく影響する女性の健康支援が課題となっているため、節目の年齢の女性を対象に、骨粗しょう症検診を実施し、女性の健康づくりを強化してまいります。

また、带状疱疹予防接種が予防接種法に基づく定期接種として令和7年4月から実施されることに伴い、接種費用の一部を助成し、带状疱疹の発症や重症化を予防してまいります。

さらに、高齢者が抱えるさまざまな健康課題に対応し、地域全体で高齢者を支え、健康寿命の延伸につなげることを目的とした、高齢者の保健事業と介護予防事業等の一体的な実施に、引き続き取り組んでまいります。

次に、「高齢者の福祉・介護の充実」では、住み慣れた地域で自分らしい暮らしをいつまでも続けることができる地域包括ケアシステムをさらに深化・推進するとともに、第9期斑鳩町介護保険事業計画・高齢者福祉計画に基づき、本町の全ての住民が、一人ひとりの尊厳の尊重と地域とのつながりを感じながら高齢期を迎えることができ、高齢になっても自立と社会参加が可能となる地域共生社会の実現に向けたまちづくり

をめざしてまいります。

また、認知症の高齢者とその家族の不安を軽減し、安心して生活できる環境づくりを進めるため、認知症高齢者が徘徊中に損害賠償責任を負った場合に補償する保険に町が加入してまいります。

次に、「障害者福祉の充実」では、障害の有無によって分け隔てられることなく、互いに人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現を果たしていくことができるよう、斑鳩町障害者福祉計画及び第7期斑鳩町障害福祉計画・第3期障害児福祉計画に基づき、障害福祉サービスの充実や合理的配慮の普及・啓発、相談機能の強化など、「地域共生社会」の実現に向けた総合的な支援に、引き続き取り組んでまいります。

次に、「安定した社会保障制度の運営」では、国民健康保険制度は、県単位での運営を行う制度として統一的な取組みを進めるなか、適切な医療費の支出となるよう県内市町村が共同して保健事業の施策を展開し、国民健康保険税などの歳入の確保に努めることで、今後も安定した財政運営が図れるよう事業を進めてまいります。

次に、「生涯学習・生涯スポーツの推進」では、生涯にわたって学べる環境づくりとして、身近な生涯学習の場である公民館や図書館が、利用者にとって、快適で魅力的な施設であり続けるよう、設備や機能の充実に努めるとともに、引き続き、多様化する住民の学習ニーズに合ったサービスを提供してまいります。

また、生涯スポーツの推進として、「いかるがの里 聖徳太子マラソン」を開催するとともに、空調設備の整備が完了した中央体育館において、子どもたちの体力づくりや子育て世代の交流の場として、「あそびの広場」を開催してまいります。

5つ目の柱、「つながりを大切にすまち」についてであります。

はじめに、「住民活動と協働の推進」では、地震や風水害などの大規模災害への備えとして地域のつながりがますますクローズアップされるなか、自治会活動の活性化に向け、その活動やコミュニティ拠点の整備に対する支援に引き続き取り組むこととし、地域集会所施設整備等補助金制度の充実を図ってまいります。

また、多様な主体との協働として、協働のまちづくり活動提案制度開始から10年目を迎えることから、これまでの取組みの検証を行うとともに、今後の協働のまちづくりのより良いあり方について検討を行ってまいります。

次に、「男女共同参画社会の推進」では、男女共同参画の意識形成に向けた取組み

を引き続き進めるとともに、本年度に実施した住民意識調査の結果や新たな課題等を踏まえ、第4次斑鳩町男女共同参画行動計画「女（ひと）と男（ひと）が輝く未来計画」を策定してまいります。

次に、「人権・平和社会・多文化共生」では、人権問題を自分たちの問題としてとらえ、一人ひとりの人権が尊重される地域社会の実現をめざし、引き続き、関係機関と連携しながら、人権セミナーや講演会、街頭啓発など人権教育と人権啓発の取組みを進めてまいります。

6つ目の柱、「魅力に満ちた活力あるまち」についてであります。

はじめに、「観光まちづくりの推進」では、まちあるき観光の拠点施設と宿泊環境の整備を目的としたマルシェ・宿泊施設等事業者誘致事業について、本年5月中の工事再開、そして令和8年3月中の開業に向けて、事業者と継続的な協議や調整を行ってまいります。

また、法隆寺iセンター等の管理運営については、公募により選定した指定管理者と連携し、民間活力を活用した施設管理や観光振興を行い、持続可能な観光地づくりを推進してまいります。

さらに、上牧町、河合町並びに広陵町が新たに加わり1市8町の体制となった「WEST NARA広域観光推進協議会」において、地域の観光資源を生かした旅行商品の造成や大阪・関西万博会場でのPR活動など戦略的な観光プロモーション等を展開し、広域連携による地域の知名度の向上と観光振興に取り組んでまいります。

次に、「商工業の振興」では、町内の商工業を振興して地域経済の活性化を図るため、斑鳩ブランドのPRや販売促進に取り組んでいくとともに、商工会や金融機関などの関係機関と連携し、経営指導の充実や国等の支援施策の情報を収集し、提供することで、町内事業者の商業活動を支援してまいります。

また、観光振興及び地域経済の発展、雇用の促進を図るため、創業や事業所の開設に対し、相談支援を引き続き継続し、助成制度を実施してまいります。

次に、「農業の活性化」では、農業者の高齢化による担い手不足、耕作放棄地の拡大等の課題解決のため、地域計画に基づき、担い手対策、遊休農地解消対策に取り組んでまいります。

また、防災重点ため池の耐震性調査、豪雨耐性調査を引き続き実施し、ため池の防災対策を強化してまいります。

さらに、井堰、農道、農業用水路など農業用施設の整備に取り組んでまいります。

7つ目の柱、「悠久の歴史と文化、自然を大切にすまち」についてであります。

はじめに、「歴史・文化遺産の保全と活用」では、藤ノ木古墳の第1次調査から40周年を迎え、藤ノ木古墳をはじめとする多くの歴史的価値を有する本町の魅力発信の機会とするため、大阪・関西万博におけるPR活動や記念講演会の開催、啓発物品の作成等のほか、関係機関・団体等と連携したツアー造成など、本町への観光誘客の促進を図ってまいります。

また、史跡中宮寺跡歴史公園の利便性向上と一層の活用促進を図るため、駐車場整備に取り組んでまいります。

さらに、斑鳩町で最も古い古民家の一つであり、老朽化が進む安田家住宅と同敷地内の春日古墳を保護するため、これを公有化し、将来における保全と活用を図ってまいります。

次に、「文化・芸術の振興」では、文化・芸術の拠点であるいかるがホールが、利用者にとって快適・魅力的な施設であり続けるよう、設備更新等を計画的に進めてまいります。

また、さまざまな分野の質の高い文化・芸術に身近にふれる機会の充実に努めます。

次に、「風景・景観・自然環境の保全」では、斑鳩の里の風景・景観を保全するため、住民、事業者及び行政がそれぞれの役割を担い、協働による景観づくりを進めるとともに、関係法令や各種補助制度等の活用により、景観形成に対する支援を継続してまいります。

また、法隆寺門前広場において、景観の向上をはじめ、観光客等の憩いの場となるよう、その再整備に取り組んでまいります。

さらに、歴史環境や自然環境を活用したビュースポットの整備に向け、地権者の意向確認や事業手法等の検討を進めてまいります。

以上、町政運営に関する私の所信の一端と、新年度における主要施策の概要につきまして申しあげました。

なお、昨今の物価高騰への対応として、住民の皆様の生活を守るため、家計や地域の事業者への支援として、低所得世帯支援給付金の給付、斑鳩町生活応援券の発行をスピード感をもって進めております。

私は「和のこころ」のもと、初心を忘れずに、住民の皆様に寄り添い、さらに対話

を重ねながら、これまで申しあげた取組みを全力で推し進めてまいります。

私一人でできることには限界があります。物事を進めるにあたっては、粘り強く、継続して取り組むことが大切です。

職員一人ひとりが知恵を振り絞り、全員が心を一つにして、住民の皆様の幸せのために全力を尽くしてまいります。

加えて、「今、何が必要か」、「何を変えるべきか」をきちんと見極め、将来を見据えた持続可能なまちづくりを展開してまいります。

どうか議員皆様におかれましては、さらなるご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。